

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2023-110152
(P2023-110152A)

(43)公開日 令和5年8月9日(2023.8.9)

(51)国際特許分類	F I			テーマコード (参考)	
F 1 6 L 3/24 (2006.01)	F 1 6 L	3/24	A	3 H 0 2 3	
F 1 6 L 3/10 (2006.01)	F 1 6 L	3/10	Z		
F 1 6 L 3/04 (2006.01)	F 1 6 L	3/04			

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全6頁)

(21)出願番号	特願2022-11399(P2022-11399)	(71)出願人	000136686
(22)出願日	令和4年1月28日(2022.1.28)		合同会社プレスト工業研究所
			東京都江戸川区中央 1 丁目 3 番 5 号
		(74)代理人	100066223
			弁理士 中村 政美
		(74)代理人	100074251
			弁理士 原田 寛
		(72)発明者	工藤 正尋
			東京都江戸川区中央 1 丁目 3 番 5 号 株
			式会社プレスト工業研究所内
		F ターム (参考)	3H023 AC08 AD26 AD32 AE08

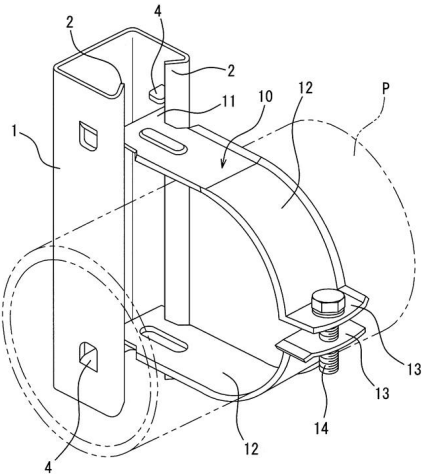
(54)【発明の名称】 配管支持架台

(57)【要約】

【課題】配管クリップをボルト止めしたボルトに緩みが生じても配管の脱落を防止することができる配管支持架台を提供する。

【解決手段】チャンネル材にて架台本体 1 を形成する。架台本体 1 のリップ部 2 に配管クリップ 1 0 の係止端部 1 1 を係止する。架台本体 1 の内側面に脱落防止突起 4 を突設する。係止端部 1 1 が脱落防止突起 4 に係止するように構成する。架台本体 1 の側面を内側に切り起こして脱落防止突起 4 を形成する。架台本体 1 は、リップ部 2 内側の長手方向に沿って連続する係止突起 3 を備える。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

チャンネル材にて形成された架台本体のリップ部内側に配管クリップの係止端部を係止する配管支持用の支持架台であって、架台本体の内側面に脱落防止突起を突設し、配管クリップの係止端部がリップ部から外れた際に、係止端部が脱落防止突起に係止するように構成したことを特徴とする配管支持架台。

【請求項 2】

前記脱落防止突起は、横引き配管を支持する前記配管クリップに近接する下方に配置した請求項 1 記載の配管支持架台。

【請求項 3】

前記脱落防止突起は、前記架台本体の側面を内側に向けて切り起こして形成された請求項 1 または 2 に記載の配管支持架台。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、例えばトンネルの配管支持や橋梁の設備照明機器用の配管支持、あるいは道路のインフラ関係の配管支持に好適な配管支持架台に関する。

【背景技術】**【0002】**

配線工事において、天井面や壁面にチャンネル材をアンカーボルトで固定し、このチャンネル材に配管クリップで配管を支持している。

【0003】

特に、トンネル入り口の配管支持や道路のインフラ関係の配管支持などでは、常に振動が加わる環境の為、施工した配管の落下防止対策が求められている。

【0004】

一方、横引き配管に使用する従来の配管支持金具が特許文献 1 に記載されている。この配管支持金具は、チャンネル材の内部にスライドプレートを設置し、リップ部の内側に当てたスライドプレートにリップ部の外側から配管クリップをボルト止めする構成である。

【0005】

この配管支持金具により、側壁に近接した横引き配管を固定する際に、横引き配管を任意の高さに固定できるようにしたものである。

【0006】

また、横引き配管を施工する際に配管等の脱落を防止する従来の工法として、横引き配管を支持する配管支持金具の下側に、落下防止具を別途配置してボルト止めする工法もあった。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0007】**

【特許文献 1】 特許第 6 1 8 0 5 5 6 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0008】**

特許文献 1 に記載の配管支持金具は、リップ部の内側にスライドプレートを当て、このスライドプレートに配管クリップをボルト止めする構成である。そのため、配管クリップを固定したボルトに緩みが生じると固定した配管が脱落するおそれがある。

【0009】

特に、トンネル入り口の配管支持や橋梁の設備照明機器用の配管支持、あるいは道路のインフラ関係の配管支持は、常に振動が加わる環境の為、配管クリップのボルトに緩みが生じて配管が脱落するおそれがある。

【0010】

10

20

30

40

50

また、配管支持金具の下側に落下防止具を別途配置する従来の工法では、使用する部品の数や作業工程が増大する不都合があった。

【 0 0 1 1 】

そこで本発明は上述の課題を解消すべく創出されたもので、配管クリップをボルト止めたボルトに緩みが生じて配管クリップ及び配管の脱落を防止することが可能で、しかも部品点数や作業工程も少なくすることができる配管支持架台の提供を目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 2 】

上述の目的を達成すべく本発明における第 1 の手段は、チャンネル材にて形成された架台本体 1 のリップ部 2 内側に配管クリップ 10 の係止端部 11 を係止する配管支持用の支持架台であって、架台本体 1 の内側面に脱落防止突起 4 を突設し、配管クリップ 10 の係止端部 11 がリップ部 2 から外れた際に、係止端部 11 が脱落防止突起 4 に係止するように構成したことにある。

10

【 0 0 1 3 】

第 2 の手段の前記脱落防止突起 4 は、横引き配管を支持する前記配管クリップ 10 に近接する下方に配置している。

【 0 0 1 4 】

第 3 の手段の前記脱落防止突起 4 は、前記架台本体 1 の側面を内側に向けて切り起こして形成されたものである。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 5 】

本発明のごとく、架台本体 1 の内側面に、配管クリップ 10 の係止端部 11 がリップ部 2 から外れた際に係止端部 11 の脱落を防止する脱落防止突起 4 を突設したことにより、配管クリップをボルト止めたボルトに緩みが生じて配管の脱落を防止することができる。しかも、従来の工法に比べて部品点数や作業工程も少なくすることもできる。

【 0 0 1 6 】

この結果、特に、トンネル入り口の配管支持や橋梁の設備照明機器用の配管支持、あるいは道路のインフラ関係の配管支持など、振動の多い環境での配管支持に極めて好適である。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明の使用状態を示す斜視図である。

【図 2】本発明の使用状態を示す側断面図である。

【図 3】本発明の使用状態を示す底面図である。

【図 4】本発明の一実施例を示す分解斜視図である。

【図 5】本発明の他の実施例を示す分解斜視図である。

【図 6】本発明の使用例を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 8 】

本発明配管支持架台は、例えば、トンネル入り口の配管支持や道路のインフラ関係の配管支持に使用する際に、チャンネル材で形成した架台本体 1 に配管クリップ 10 で配管 P を支持固定する（図 6 参照）。すなわち、チャンネル材にて形成された架台本体 1 のリップ部 2 内側に配管クリップ 10 の係止端部 11 を係止して配管 P を固定するものである（図 1 参照）。

40

【 0 0 1 9 】

図示の架台本体 1 は、架台本体 1 のリップ部 2 内側に沿って連続する係止突起 3 を備えている（図 2 参照）。そして、この係止突起 3 に配管クリップ 10 の係止端部 11 を係止するように構成したものである。この係止突起 3 により係止端部 11 の係止強度を高めている。

50

【 0 0 2 0 】

そして、架台本体 1 の内側面に脱落防止突起 4 を突設する（図 3 参照）。このように脱落防止突起 4 を架台本体 1 の内側に向けて突設することで、配管 P を固定している配管クリップ 1 0 の係止端部 1 1 が仮に振動等でリップ部 2 から外れた場合に、この脱落防止突起 4 に係止端部 1 1 が係止し、配管 P の脱落を防止する構造になっている（図 2 参照）。

【 0 0 2 1 】

図示の脱落防止突起 4 は、架台本体 1 の側面を内側に向けて切り起こして形成している（図 1、2 参照）。このとき、架台本体 1 の対向する側面に一対形成しているが、架台本体 1 の底板やリップ部に適数个の脱落防止突起 4 を切り起こして形成することも可能である。更に脱落防止突起 4 は、係止端部 1 1 のどちらか一方の下方にあればよく、その範囲内であれば配管 P の固定場所を自由に選択できる。また、図示例の他架台本体 1 とは別体の脱落防止突起 4 が架台本体 1 内側に突出するように設けることも可能である。

10

【 0 0 2 2 】

この脱落防止突起 4 は、係止端部 1 1 がリップ部 2 から外れた場合に、この係止端部 1 1 が脱落防止突起 4 に係止する位置に配置する。そのため、脱落防止突起 4 の配置位置は横引き配管を支持する配管クリップ 1 0 に近接する下方に配置する（図 2 参照）。図示の脱落防止突起 4 は、配管クリップ 1 0 の上下の係止端部 1 1 の外側に配置している（図 1 参照）。こうすることで、架台本体 1 の天地の向きが逆になっても、常に配管クリップ 1 0 に近接する下方に脱落防止突起 4 が位置することになる。

【 0 0 2 3 】

つまり、この脱落防止突起 4 は、配管クリップ 1 0 の下方に、配管クリップ 1 0 の係止端部 1 1 がリップ部 2 から外れた場合に係止端部 1 1 が係止する位置に配置されておればよく、突起の形状は限定されない。例えば、切り起こしの向きを変えたり、パーリングやエンボス等に変えたりしても機能を果たすことは可能である。

20

【 0 0 2 4 】

更に、架台本体 1 は配管 P を固定する数により長さを選択することができる。また固定する配管 P の数により脱落防止突起 4 の数も変更される。例えば 1 本の配管 P を固定する場合、配管クリップ 1 0 の各係止端部 1 1 の外側の位置に形成した 4 個の脱落防止突起 4 を形成する（図 4 参照）。

【 0 0 2 5 】

更に、2 個の配管 P を固定する場合は、長めの架台本体 1 に合計 8 個の脱落防止突起 4 を形成する（図 5 参照）。このように、固定する配管 P の数が増える場合は、使用する配管クリップ 1 0 の数に合わせて、架台本体 1 の長さや脱落防止突起 4 の数を調整することもできる。

30

【 0 0 2 6 】

天井や壁面に架台本体 1 を固定するにはアンカーボルト 2 0 を使用する（図 3 参照）。図示例では、架台本体 1 に開穿したボルト挿通孔 5 にアンカーボルト 2 0 を挿通し、ゆるみ止めナット 2 1 と皿ばね座金 2 2 を使用して固定している（図 4、5 参照）。このように、ゆるみ止めナット 2 1 と皿ばね座金 2 2 とを併用することで、二重落下防止の対策が施された施工をすることができる。

40

【 0 0 2 7 】

一方、架台本体 1 に配管 P を固定する配管クリップ 1 0 は、配管 P を挟着する一対の挟着片 1 2 を使用する一般的な配管クリップ 1 0 である（図 1 参照）。すなわち、挟着片 1 2 の一端部に、リップ部 2 の内側に係止する鉤形状の係止端部 1 1 を備えると共に、挟着片 1 2 の他端部に連結部 1 3 を形成したものである。

【 0 0 2 8 】

そして、この配管クリップ 1 0 で配管 P を固定するには、各挟着片 1 2 の係止端部 1 1 を架台本体 1 のリップ部 2 内側に係止し、連結部 1 3 相互を連結ボルト 1 4 がボルト止めすることで配管 P を挟着した配管クリップ 1 0 が架台本体 1 に固定される（図 1 参照）。

【 0 0 2 9 】

50

本発明支持架台は、道路や橋梁等の屋外で使用されることが多い（図 6 参照）。したがって、架台本体 1 の材質や、配管クリップ 10、アンカーボルト 20 等の材質はステンレス等の耐食性に優れた材質が望ましい。

【 0 0 3 0 】

尚、本発明の各構成は図示例に限定されるものではなく、架台本体 1 や配管クリップ 10 の形状、あるいは脱落防止突起 4 の形状や数、構成、大きさ等は、本発明の要旨を変更しない範囲において設計変更は自由である。

【 符号の説明 】

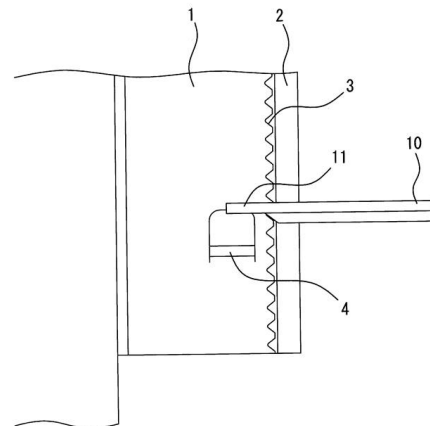
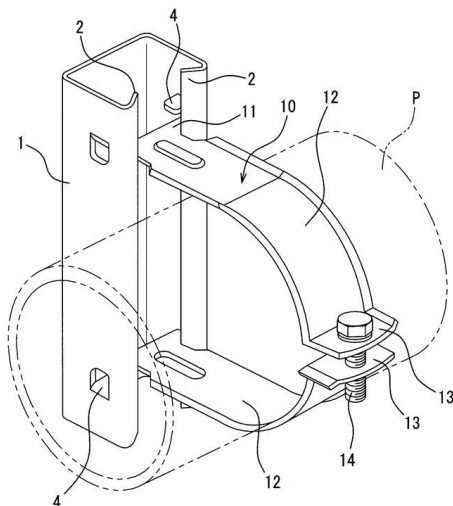
【 0 0 3 1 】

P	配管	10
1	架台本体	
2	リップ部	
3	係止突起	
4	脱落防止突起	
5	ボルト挿通孔	
10	配管クリップ	
11	係止端部	
12	挟着片	
13	連結部	
14	連結ボルト	20
20	アンカーボルト	
21	ゆるみ止めナット	
22	皿ばね座金	

【 図面 】

【 図 1 】

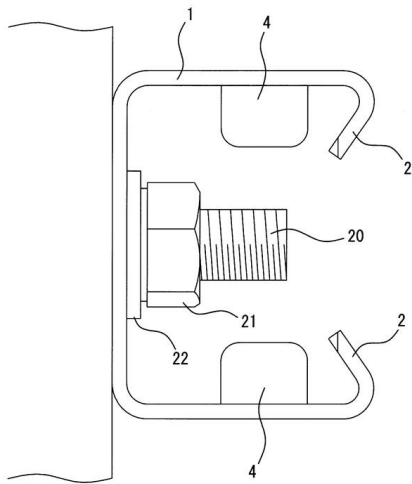
【 図 2 】



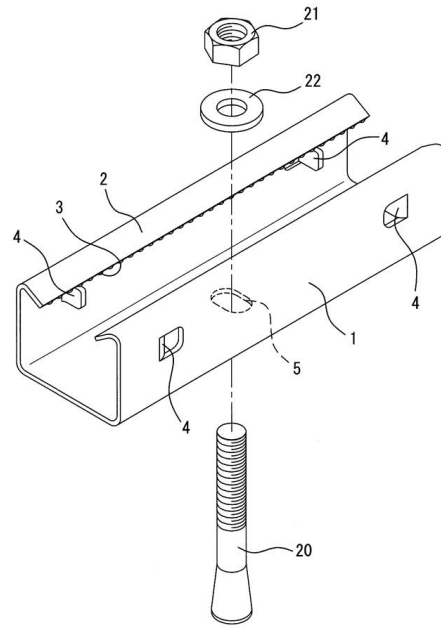
30

40

【図 3】



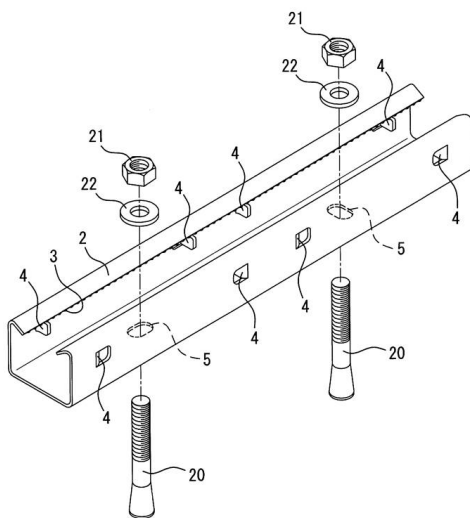
【図 4】



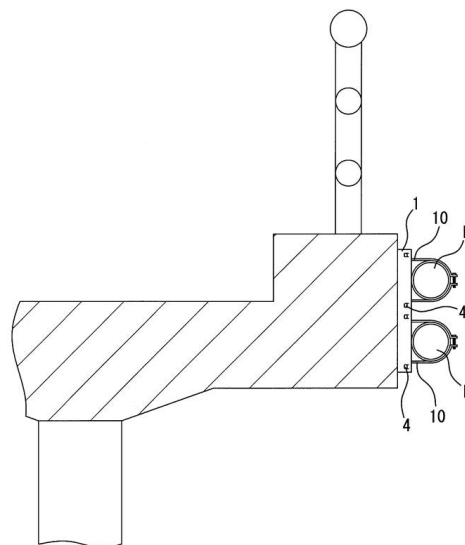
10

20

【図 5】



【図 6】



30

40

50